

2017年12月8日

三井化学株式会社

中国での電解液設備増強が完了

－ 中国での拡大するEV需要に対応 －

三井化学株式会社（東京都港区、社長：淡輪 敏）は、台湾プラスチック社（台北市、董事長：林 健男以下、F P C）との折半出資会社である台塑三井精密化学有限公司（以下、F M A C）において、2016年12月からリチウムイオン電池向け電解液の設備能力を増強しておりましたが、2017年11月に営業運転を開始いたしました。

リチウムイオン電池は、ノートブックパソコン、スマートフォン、タブレット端末の普及に伴い市場が拡大しておりますが、今後は環境への負荷が小さいプラグインハイブリッド車や電気自動車（EV）の普及が見込まれており、中国を中心に更なる市場拡大が期待されています。

当社はF P Cとともに、高品質な電解液の生産設備を建設し、2016年7月から営業運転を開始しております。今回の増強は、需要拡大が見込まれる中国市場のニーズに対応するべく、長年培った電解液に関する技術と知見を活かし、市場拡大に備え、供給体制を強化するものです。

< F M A Cと設備増強設の概要 >

1. 社名	台塑三井精密化学有限公司 Formosa Mitsui Advanced Chemicals Co., Ltd.
2. 設立時期	2013年8月
3. 資本金	8.2百万USドル
4. 出資比率	三井化学 50%、台湾プラスチック 50%
5. 所在地	本社、工場：中国F P C寧波コンビナート内
6. 事業内容	中国における電解液の製造・販売・研究
7. 生産能力	5,000トン／年（うち今回増強分 3,500トン／年）

また、リチウムイオン電池向け電解液は、日本国内においても車載用を中心に市場拡大が見込まれ、三井化学は、2017年4月から名古屋工場に、5,000トン／年の生産設備の営業運転を開始しております。

当社はモビリティ分野を「成長を牽引するターゲット事業領域」と位置づけており、当社独自の特長あるリチウムイオン電池向け電解液は、モビリティ分野の中で積極的な拡大を進めている事業の一つです。当社は、中国及び日本における電解液の供給体制の拡充を通じて、モビリティ事業の更なる強化・拡大を進めてまいります。

ご参考 <台湾プラスチックス社の会社概要>

1. 社名	FORMOSA PLASTICS CORPORATION
2. 設立時期	1954年11月
3. 資本金	19.3億USドル
4. 所在地	201 Tung Hwa N. Road Taipei, Taiwan
5. 事業内容	石油化学製品、および化学品の製造・販売
6. 従業員数	6,316人(2016年)

以上

<本件に関する問い合わせ>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部 (TEL : 03-6253-2100)